

## 過酷な戦いを乗り切り5位入賞を果たす

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round5 『第44回インターナショナルSUZUKA 1000km』
DATE	予選：2015年8月29日 決勝：2015年8月30日
CIRCUIT	鈴鹿サーキット（三重県）
WEATHER	予選：曇/ドライ 決勝：雨・曇り/ウェット～ドライ
RESULT	予選：14位 決勝：5位

今シーズンの前半戦を5位入賞で終え、後半戦に向けていい流れをつかんだTEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。さらに勢いをつけるべく迎えたのが三重・鈴鹿サーキットでの「第44回インターナショナルSUZUKA 1000km」。伝統の一戦であり、また季節的に“真夏の一戦”と呼ばれることも多く、過酷な戦いとしても知られる。チームでは予選こそ14番手と出遅れたが、決勝では快走を見せてジャンプアップ。5位でレースを終え、前回富士戦から連続5位入賞を果たすこととなった。



第4戦富士での戦いからわずか3週間で迎える鈴鹿の一戦。限られた準備期間で挑む戦いだけに着実な結果を残していきたいところ。富士では開幕戦以来となる完走そして入賞を果たしており、鈴鹿ではこの勢いを持続させ、さらなるステップアップを目指したいところだ。

予選日を迎えた鈴鹿は薄曇りの朝となる。前夜遅くには雨が降り、コースにはその跡が残っている状態。まず各車ともレインタイヤを装着してのコースインとなる。加えて不安定なコンディションが影響し、セッション中には3度の赤旗中断を招くことになった。そんな中、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは山本尚貴選手がチームベストとなる1分48秒514をマーク、5番手の結果を残して午後からのノックアウト予選に向けていい足がかりを築くことになった。

### ◎ 予選：

先の公式練習では気温24度、路面温度25度という思いもしない数値が刻まれた鈴鹿。走行時には次々とコースレコードを上回るタイムが出ていたことから、予選セッションも同様の動きになることが予想された。

午後2時50分、GT500クラスのQ1がスタート。晴れてはいるが気温は27度、路面温度は33度と例年よりかなり低い。一方、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTには山本選手が乗り込みコースへと向ってアタックを開始、だがセッション終了まで残り3分の時点で1台がS字でコースアウト、これで赤旗が提示された。幸いにもセッションは残り5分で再開されることになり、再度アタックのチャンスが訪れたが、刻まれたチームベストは1分50秒075。14番手に留まり、Q2への進出の道を閉ざされた。

実のところNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは車両トラブルを抱え、コースに向った直後から山本選手はその異変をチームに無線を通して伝えていた。その後、ピット内では部品交換作業が始まり、決勝に向けての準備を進めることになった。

「クルマの調子は決して悪くなかったし、Q2進出を意識してアタックに挑みましたが、その直前に車両トラブルが出てしまい残念でした。もったいなかったです」とQ1でタイムアタックのチャンスを失った山本選手。セッションが一度赤旗中断となった時間を活用し、クルマを修復できると思ったというが、間に合わず。作業に時間を要することがわかり、決勝中に発生しなくて良かったと気持ちを切り替えたという。一方の伊沢拓也選手は、朝の公式練習でQ2進出への手応えはあっただけに悔しそうな表情を見せたが、「明日は距離も長く、天候もどう変化するのか、わからない。それでも最低限ポイントを獲得したいので、しっかりと戦っていききたい」と闘志をのぞかせた。

## ◎決勝：

前日同様に、決勝日も薄曇りの朝となった鈴鹿。通常と異なり、今回は朝のフリー走行セッションがなく、レース直前に設けられた20分間のウォームアップ走行が最終チェックの時間となる。一方で、居座り続ける雨雲が決勝を待っていたかのように、ついには路面を濡らしはじめた。前日の予選日ではレインタイヤでの走行がほとんどなく、決勝レースでほぼぶっつけ本番となったが、逆に降雨がNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTにとつて、好材料になる。



スタートドライバーを担当する山本選手は持ち込みタイヤのうち、柔らかい方を装着したいとチームにリクエスト。午後0時25分、気温26度、路面温度28度という想定外のコンディションの下、1000kmの戦いが始まると、周回毎に前へ前へとポジションアップを成功させる山本選手。14周目にはさっそくファステストラップを更新するなど、見事にNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTの戦略が奏功する。まるで水を得た魚のように、スムーズにそして果敢な攻めの走り続けるNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。緩急をつけた走りで逆転を繰り返し、19周終了時には2番手まで浮上した。

その後、山本選手は31周目を終えてピットイン。タイヤ交換、給油作業をそつなくこなし、伊沢選手へと交代。ひと足先のピット作業でコースに復帰していたNo.15 NSXの前に出て、トップを奪取！ その後は15号車に加えNo.36 RC Fとの三つ巴のバトルを展開した。一方、一度は本降りになった雨も午後2時を過ぎると空が明るくなるまで回復。刻々と変化するコンディションにも気を配りながら伊沢選手は36号車とのバトルに挑戦、緊迫したトップ争いを続けた。

一度は1秒を切る2台のバトルも次第に落ち着き、レース開始2時間を経てその差はおよそ3秒まで広がる。そして迎えた61周目、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは2度目のピットインを実施。すでに雨は止み、路面もほぼスリックタイヤでの走行が可能となったことからチームでは迷わずスリックを準備、山本選手がピットで伊沢選手の帰りを待った。

ピットへと滑り込むNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。その後方から2番手を走る36号車もピットに帰還、トップ2台によるピット作業での争いが始まった。だが隣前方のピットで作業をするGT300の車両がタイミング悪く100号車の前に立ちはだかる。これでピットアウト時に一度車両を後方移動する作業を強いられ、タイムロスが発生。結果、ピットロード出口では1コーナー寄りにピットを構える36号車がギリギリのタイミングで山本選手の前に割って入るといった思わぬ形で逆転を許すことになってしまった。



さらにハプニングは続き、翌周にはGT300車両が200Rで激しくクラッシュ、SCカーがコースインしてレースがコントロールされる。7周に渡るSCランが解除され、36号車とのバトルを始めた山本選手だったが、ほどなくして2度目のSCランとなり、水を挿されてしまう。しかしその後も山本選手は集中力を維持し、81周目にはチームベストストラップを更新。98周終わりのピットインまで力走を続けた。3度目のピットインもまた36号車と同じタイミングになったが、今回はスムーズに作業終了。伊沢選手が2度目のステントに向った。ただ、ドライコンディションが続く中、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTはペースを上げることが今ひとつ難しい状態。さらには燃費を考慮した走りへとスイッチしたために、トップを猛追する走りからポジションキープを重視した戦略を採ることにな

る。結果、代わってドライでのスピードを持つライバル勢が台頭、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTはその後方で周回を重ねる形になったが、依然として表彰台の可能性を信じて粘りの走りを見せた。

迎えた4度目のピットイン。ライバル勢よりも早めのタイミングでピットに戻り、山本選手が最後の戦いへと向う。130周目、4位走行中の1分52秒449のチームベストタイムを更新。しかしライバル勢も終盤にペースアップ、最後の最後までタフな戦いが続いた。150周目のシケインではサイド・バイ・サイドのバトルに挑戦。残念ながらポジションを明け渡すこととなったが、その後は安定したペースで5位を死守。厳しい条件下でスタートを切ったNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTだったが、チームの強固な結束力によってHonda勢最高位となる5位入賞の結果を残すことに成功している。

ポイントランキングでもHonda勢トップに立ったNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。ウェイトハンディが58ポイントとなったことで、次戦スポーツランドSUGOでは58kgのウェイトから50kg分を燃料リストラクター調整へと置き換えることが可能となった。アップダウンの多いSUGOのコースでウェイト軽減にはメリットが多い。終盤に向けて、チームの躍進に期待が高まる。

### ◎高橋国光総監督



なんとかいい結果を残したいと希望をもって迎えた1000kmレースでしたが、今回の結果は勝利に値するものと言えます。予選中に思わぬトラブルに見舞われましたが、スタッフがしっかりと作業をしてくれ、またドライバーも決勝で力走してくれたので、希望の光を持ってレースの展開を見守ることができました。様々なトラブルが出て不思議ではなかった状況で、ミスをしなかったことがこの結果をたぐり寄せることになったのだと思います。チームによる最良の判断も結果に大きな影響を与えたと言えるでしょう。次のSUGO戦もさらに楽しみにしていただきたいですね。

### 山本尚貴選手

スタートでは、大きな雨雲も来ていたのでずっと雨になると思っていました。

周りが結構硬めのタイヤを着けていましたが、僕は柔らかめのタイヤをリクエストしてコースに向いました。それがうまく機能してあつという間に抜くことができました。すごくクルマの調子も

タイヤの調子も良かったので、ポジションを上げることができました。そこから刻々とコンディションが変わる中、その都度選択したタイヤをはじめ戦略を含めて、チームが完璧に戦略を立ててくれてそれを遂行することができました。欲を言えば雨がずっと降り続けていたら、間違いなくウチのクルマが一番だった（速かった）と思います。

ウェイトを下ろして燃料リストラクターを調整する車両と僕らのようにウェイトを積んで走る車両が混在してのポジション争いになりましたが、Hondaとして全体的に厳しい戦いが続くなか、最後までコースに留まり、5位入賞でポイントを獲得できたのは今の僕たちが持っている中でベストは尽くせたからではないでしょうか。ただ、正直勝ちたかったし、そのチャンスもあったと思うし、ホンダのホームコースで表彰台に上がる姿をファンのお見せしたかったとも思います。それが本音です。



### ◎伊沢拓也選手



色々なことが起る中、僕らとしてはいいレースができたと思います。ドライコンディションに変わってからは、ちょっとペースを上げることが難しくなりましたが、逆に前半のウェットではトップをキープしながら走ったし、戦うことができたレースでした。順位も守ることができて良かったです。

レース後半は完全にドライとなり、僕らには厳しいコンディションだったので、ペースが今ひとつ伸びませんでしたが、とりあえず無事にゴールができて良かったです。これから後半戦、しかもアップダウンのあるスポーツランドSUGOでのレースを前に、(ウェイトを下ろして)燃料リストラクターのダウンが可能になったので、これは大きい成果となりました。今シーズンは前半に思わぬトラブルなどで厳しい戦いが続きましたが、富士、鈴鹿とキッチンとやりきってポイントを獲得したので、次のSUGOでは開幕戦以来となる表彰台目指してがんばりたいですね。

第6戦は9月19～20日に宮城県・スポーツランドSUGOにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。